

令和6年度（令和6年4月入学）・令和5年度（令和5年秋入学）

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科

博士前期課程（修士課程）一般入試学生募集要項

学 域	専 攻	一般入試			
		4月入学			秋入学
		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	
応用生物学域	応用生物学専攻	20名	—	若干名	—
物質・材料科学域	材料創製化学専攻	18名	—	若干名	—
	材料制御化学専攻	17名	—	若干名	—
	物質合成化学専攻	18名	—	若干名	—
	機能物質化学専攻	17名	—	若干名	—
設計工学域	電子システム工学専攻	10名	—	—	—
	情報工学専攻	16名	—	若干名	—
	機械物理学専攻	16名	—	若干名	—
	機械設計学専攻	12名	—	若干名	—
デザイン科学域	デザイン学専攻	25名	—	若干名	若干名
	建築学専攻	66名	—	—	—
	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	4名	—	—	—
繊維学域	先端ファイブロ科学専攻	30名	若干名	若干名	若干名
	バイオベースマテリアル学専攻	12名	若干名	若干名	—
出 願 期 間	第Ⅰ期・秋入学：令和5年6月22日～6月29日 第Ⅱ期：令和5年9月12日～9月19日 第Ⅲ期：令和5年10月25日～10月31日				
学 力 検 査 日	第Ⅰ期：令和5年8月22日・23日 第Ⅱ期：令和5年10月14日 第Ⅲ期：令和5年12月2日 秋入学：令和5年8月22日				
合 格 発 表	第Ⅰ期・秋入学：令和5年9月6日 第Ⅱ期：令和5年10月18日 第Ⅲ期：令和5年12月13日				
入 学 手 続 期 間	第Ⅰ期・第Ⅱ期：令和5年11月16日～11月22日 第Ⅲ期：令和6年2月8日～2月14日2月10日～2月19日 秋入学：令和5年9月8日～9月14日				

令和6年度（令和6年4月入学）・令和5年度（令和5年秋入学）
 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 博士前期課程（修士課程）
 一般入試学生募集要項

1 募集人員

学 域	専 攻	募 集 人 員			
		4月入学			秋入学
		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	
応用生物学域	応用生物学専攻	20名	—	若干名	—
物質・材料 科学域	材料創製化学専攻	18名	—	若干名	—
	材料制御化学専攻	17名	—	若干名	—
	物質合成化学専攻	18名	—	若干名	—
	機能物質化学専攻	17名	—	若干名	—
設計工学域	電子システム工学専攻	10名	—	—	—
	情報工学専攻	16名	—	若干名	—
	機械物理学専攻	16名	—	若干名	—
	機械設計学専攻	12名	—	若干名	—
デザイン 科学域	デザイン学専攻	25名	—	若干名	※若干名
	建築学専攻	66名	—	—	—
	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	※4名	—	—	—
繊維学域	先端ファイブロ科学専攻	30名	若干名	若干名	若干名
	バイオベースマテリアル学専攻	12名	若干名	若干名	—

※デザイン学専攻の一般入試秋入学では、修了方法「DDコース型」のみ募集します。

※京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻の募集人員4名には、連携外国大学（チェンマイ大学）における入学試験の定員2名分を含むため、本学における入学試験の定員は2名です。

《注》(1) 募集人員は、あくまで合格の目安を示すもので、合格者の数を確約するものではありません。

選抜の結果によっては、合格者が募集人員に対して増減する場合または合格者がいない場合があります。

(2) 機械物理学専攻では機械設計学専攻を、機械設計学専攻では機械物理学専攻を第2志望とすることが可能です。第1志望の専攻で合格とならなかった場合、第2志望の専攻で合格することがあります。

(3) 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻では、建築学専攻を第2志望とすることが可能です。第1志望の専攻で合格とならなかった場合、第2志望の専攻で合格することがあります。

(4) 各専攻における推薦入学特別入試又は自己推薦特別入試の入学手続者数が募集人員に対して増減した場合は、一般入試第Ⅰ期の各専攻の募集人員を減らす、あるいは増やすなど調整を行います。

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する人としてします。

- (1) 大学を卒業した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに卒業見込みの人
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに授与される見込みの人
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに修了見込みの人
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに修了見込みの人
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに修了見込みの人
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された人及び令和6

年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに授与される見込みの人

※(6)の資格で出願する場合は、出願前に出願資格の確認を行いますので、次の期日までに学位授与（見込）証明書、学業成績証明書を入試課大学院入試係(innyushi@kit.ac.jp)まで電子メールにて送付してください。

第Ⅰ期・秋入学：令和5年5月29日（月）、第Ⅱ期：令和5年7月28日（金）、第Ⅲ期：令和5年9月28日（木）

確認終了後、結果を電子メールにてお知らせします。

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに修了見込みの人
- (8) 文部科学大臣の指定した人（文部省告示第5号）及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに該当する見込みの人
- (9) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第102条第2項の規定により大学院に入学した人で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた人《注1》
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した人と同等以上の学力があると認めた人で、令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに22歳に達する人《注1、注2》
- (11) 令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに、次のいずれかに該当する人であって、本研究科において、大学の定める単位を優れた成績をもって修得したものと認めた人《注1》
- ① 大学に3年以上在学〔前述(1)の該当者を除く〕した人
 - ② 外国において学校教育における15年の課程を修了した人
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した人
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した人

《注1》(9)、(10)もしくは(11)の資格で出願する場合は、出願前に出願資格の認定審査を行いますので、『3 出願資格認定審査及び入学許可認定等』に基づき審査の申請手続を行ってください。

《注2》(10)の出願資格については、高等専門学校・短期大学の卒業生、専修学校・各種学校の卒業生、外国人学校の卒業生など大学卒業資格を有していない人を対象とします。

3 出願資格認定審査及び入学許可認定等

- (1) 『2 出願資格 (9)、(10)もしくは(11)』の資格で出願を希望される人は、以下に記載の「出願資格認定審査申請期限」までに、申請書類の提出が必要となりますので、入試課大学院入試係へ問い合わせてください。

入試区分	出願資格認定審査申請期限	出願資格認定審査結果通知
第Ⅰ期・秋入学	令和5年5月29日（月）16時まで	令和5年6月21日（水）まで
第Ⅱ期	令和5年7月28日（金）16時まで	令和5年9月11日（月）まで
第Ⅲ期	令和5年9月28日（木）16時まで	令和5年10月24日（火）まで

《注》今年度実施する入試において出願資格認定審査を申請し、本研究科での審査の結果、出願資格があると認められた人は、他の入試区分に出願する際、再度の申請は不要です。ただし、次年度以降に実施する入試に出願の際は、当該年度の資格審査が必要となるため、再度申請を行ってください。

- (2) 審査の結果、出願資格を有すると認定された人は、改めて『5 出願手続』に基づき、出願手続を行ってください。
- (3) 『2 出願資格 (11)①』で出願資格認定され、出願し合格した人であっても、在籍する大学において3年次に履修登録した授業科目を優秀な成績で修得している人でなければ入学が許可されません。従って、入学許可の認定審査を次のとおり行いますので、必ず審査手続を行ってください。
- ① 提出書類 成績証明書（3年次末までに修得したすべての科目名、単位数及び評価の記載があるもの）
 - ② 提出期限 令和6年3月8日（金）（秋入学の場合：令和5年9月8日（金））
受付時間は、9時から12時まで及び13時から16時までです。なお、郵送の場合も、提出期限の16時までに必着したのものについて受け付けます。
 - ③ 審査結果 令和6年3月15日（金）（秋入学の場合：令和5年9月15日（金））までに本人宛に通知します。
なお、本資格で本研究科博士前期課程に入学した人の学部学生としての学籍上の取り扱いは、退学となります。従って、合格者は、入学許可認定後、速やかに退学手続を行ってください。また、各種国家試験などの受験資格において大学の学部卒業が要件となっているものについては、受験資格がなくなるので十分留意してください。

4 出願期間（インターネット出願システム入力期間及び出願書類提出期間）

入試区分	インターネット出願システム入力期間及び出願書類提出期間
第Ⅰ期・秋入学	令和5年6月22日（木）から令和5年6月29日（木）まで
第Ⅱ期	令和5年9月12日（火）から令和5年9月19日（火）まで
第Ⅲ期	令和5年10月25日（水）から令和5年10月31日（火）まで

上記の期間内に本学のインターネット出願システム（<https://www.postanet.jp/info/010050/>）にアクセスし、志願者情報の入力及び検定料支払手続を行い、印刷のうえ出願書類を提出してください。

※インターネット出願システムへの入力のみでは出願手続は完了しません。必ず期間内に出願書類を提出してください。

出願書類提出方法

<p>入試課へ持参して提出する場合</p> <p>《入試課》 松ヶ崎キャンパス3号館1階</p>	<p>○土曜日・日曜日・祝日は受付していません。</p> <p>○受付時間は9時から12時まで及び13時から16時までです。</p>
<p>郵送で提出する場合</p> <p>《郵送先》 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 京都工芸繊維大学 入試課大学院入試係</p>	<p>○それぞれの出願期間最終日までの消印（日本国内）があるものについて受け付けます。</p> <p>○インターネット出願システムにて所定の事項の入力及び検定料支払手続完了後、宛名ラベル（大学送付用）をダウンロードし、市販の角2封筒に貼り付けて必要書類を封入してください。</p>

5 出願手続（インターネット出願）

出願に際しては、本募集要項等を熟読し、登録漏れ、誤りのないようにしてください。

受験票は、システム入力及び検定料支払手続終了後、各自でインターネット出願システムから印刷し、試験当日に持参してください。

出願書類の右上に、入学願書印刷時に付番される「受験番号」を記載してから提出してください（ただし、「TOEIC個人用公式認定証（原本）」、発行時に厳封された出願書類は除きます）。

なお、応用生物学専攻、材料創製化学専攻、材料制御化学専攻、物質合成化学専攻、機能物質化学専攻、電子システム工学専攻、情報工学専攻、デザイン学専攻、建築学専攻、京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻、先端ファイブ科学専攻およびバイオベースマテリアル学専攻の出願に当たっては、希望する研究内容などの不一致を防ぐため、希望指導教員にあらかじめ連絡・確認しておいてください（機械物理学専攻および機械設計学専攻については、希望指導教員への連絡は不要です）。

〔出願書類〕

(1) 入学願書	インターネット出願システム（ https://www.postanet.jp/info/010050/ ）にて所定の事項を入力し、出願者の写真をインターネット出願システムにアップロードしてください。その後、検定料の支払手続（『6 検定料の支払』参照）を行い、入学願書を印刷、提出してください。
(2) 学業成績証明書	在籍または出身大学の学長もしくは学部長が作成したものを提出してください。 《注1》
(3) 卒業証明書または卒業見込証明書	在籍または出身大学の学長もしくは学部長が作成したものを提出してください。 《注2》
(4) 志望理由書 ※該当の専攻・区分のみ	応用生物学専攻（第Ⅰ期）に出願する人は、本学のホームページ（ https://ac.web.kit.ac.jp/02/nyushi/daigakuin_yoko.html ）より様式をダウンロードし、希望指導教員と相談のうえ、教員の確認印をもらって提出してください。確認印のないものは出願を認めません。

(5) 研究計画書 ※該当の専攻・区分のみ	応用生物学専攻（第三期）、デザイン学専攻（第Ⅰ期・第三期）、建築学専攻または京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻に出願する人は、本学のホームページ（ https://ac.web.kit.ac.jp/02/nyushi/daigakuin_yoko.html ）より各専攻専用の様式をダウンロードし、希望指導教員と相談のうえ、教員の確認印をもらって提出してください。確認印のないものは出願を認めません。
(6) 希望指導教員調査票 ※該当の専攻のみ	先端ファイブ科学専攻及びバイオベースマテリアル学専攻に出願する人は、本学のホームページ（ https://ac.web.kit.ac.jp/02/nyushi/daigakuin_yoko.html ）より様式をダウンロードし、希望指導教員名、連絡先メールアドレス等を記入の上、提出してください。
(7) TOEIC個人用 公式認定証（原本）	TOEIC Listening & Reading公式認定証(Official Score Certificate)（原本）を提出してください（コピー不可）。原本は、受付後直ちに返却します（郵送で出願された場合は(8)の返信用封筒にて返却します）。 なお、TOEICスコアの有効期限は、TOEIC受験日（公式認定証に明記されている年月日）が、出願期間の最終日から遡って、2年以内とします。 <u>また、カレッジTOEIC等の団体特別受験制度（IPテスト）では、スコアの公式認定証が発行されないのので、同テストによるスコアは認めません。</u> ※次の条件を満たす人はTOEIC個人用公式認定証の提出が不要な場合があります。詳細は5ページの『9. 選抜方法』を確認してください。 ・主として英語による教育を行う大学を卒業した、もしくは、卒業見込である。
(8) 返信用封筒 （郵送での出願者のみ）	TOEIC個人用公式認定証返却用 長3サイズの封筒に住所、郵便番号、氏名を明記し、84円分の郵便切手を貼って提出してください。
(9) その他	ア. 現在、他の大学院に在学中の人は、当該大学院の受験許可書。 イ. 外国籍の方は、在留資格の確認をしますので、在留カードを提示してください。 ウ. 授業料免除を希望する外国人留学生は、授業料免除申請書類を併せて提出してください（18ページ参照）。

《注1》『2 出願資格(2)もしくは(10)』の資格で出願する場合は、最終出身学校の学校長等が作成したものとし、高等専門学校または短期大学（以下「高等専門学校等」という）の専攻科に在籍中または出身の人は、高等専門学校等及び専攻科の両方を提出してください。

《注2》『2 出願資格(2)もしくは(10)』の資格で出願する場合は、最終出身学校の卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書とし、『2 出願資格(2)』の場合は、大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与（申請受理）証明書または最終学校の学校長等が証明した学位授与申請予定証明書も併せて提出してください。

※一部の出願書類については本学ホームページの入試情報（https://ac.web.kit.ac.jp/02/nyushi/daigakuin_yoko.html）よりダウンロードできません。

※その他、必要に応じて別途書類の提出を求めることがあります。

※出願書類に係る個人情報、出願後の連絡、受験資格の確認、入学者の選抜、統計調査、合格通知及び入学手続のみに使用します。

※入学者選抜における個人の成績は、入学者選抜の他、成績管理・分析及び各種統計資料作成、入試結果調査、入学科・授業料免除申請者の選考及び奨学金申請者の採用推薦選考のみに使用します。

6 検定料の支払

30,000円

支払方法は、コンビニエンスストア・クレジットカード・銀行ATM（ペイジー）より、選択が可能です。インターネット出願システムに表示される案内に従って、期日までに支払手続を行ってください。なお、支払には別途手数料がかかります。

ただし、次ページの表に該当する人は、検定料が不要または免除されることがあるため、出願前に入試課大学院入試係に申し出てください。

対象者	条件	必要書類等	検定料
国費外国人留学生	奨学金支給期間延長の申請予定者	国費外国人留学生であることを証明する書類	不要
大規模な風水害等により被害を受けた人	風水害等の発生が 出願期間前の概ね1年以内	別途指示します	全額免除の場合あり

7 障害等のある人との事前相談について

本学に出願しようとする人で、障害等のある人は、受験上及び修学上必要な配慮を行いますので、出願の前あらかじめ本学に申し出てください。

なお、相談が必要となる場合の事前手続は、次のとおりです。また、出願書類提出後でも、同配慮を必要とする場合は、相談の締切日にかかわらず、速やかにご相談ください。

① 相談の時期

原則として、出願期間開始日の1週間前まで。

② 相談の方法

相談書（健康診断書などの必要書類添付）を提出してください。必要な場合は、本学において出願者の事情を説明できる人との面談等を行います。

8 出願についての注意事項

(1) 次の場合には、出願書類を受理しません。

- ① インターネット出願システム上で出願処理が完了していない場合
- ② 出願書類がそろっていない場合
- ③ 出願書類の記載が不完全な場合
- ④ 検定料が支払われていない場合

(2) 出願書類の受理後は、記載事項の変更は認めません。

(3) 出願書類はTOEIC Listening & Reading 公式認定証（原本）を除き、原則返還しません。

また、支払済の検定料は、次の場合を除き、原則返還しません。

- ① 検定料を支払ったが出願しなかった（出願書類を提出しなかったまたは出願書類が受理されなかった）場合
- ② 検定料を誤って二重に支払った場合

※ 検定料返還請求の方法については、入試課大学院入試係へお問い合わせください。

(4) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学の許可を取り消すことがあります。

9 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査及び書類選考により行います。

なお、次の条件を満たす人については、学力検査科目「外国語」を課さない場合があります。

- ・主として英語による教育を行う大学を卒業した、もしくは、卒業見込である。

上記に該当すると思われる方は、次の日時までに電子メールにて入試課大学院入試係にご相談願います。

その際、原則として、大学において「主として英語による教育を受けた」ことを証明する書類が必要になります。

第Ⅰ期・秋入学：令和5年5月29日（月） 第Ⅱ期：令和5年7月28日（金）

第Ⅲ期：令和5年9月28日（木）

相談方法：電子メール（innyushi@kit.ac.jp）

10 アドミッションポリシー

各専攻では、専攻に係る専門的な教育研究をすることにより、以下に掲げる人材を育成します。また、この専門的な教育を修めて研究を遂行するために、以下に掲げる能力や適性を持つ人を求めます。

応用生物学専攻

人材育成の目標

バイオテクノロジーに関する高度な知識、技術、展開能力を有し、諸課題を解決し社会に還元することで、安全で幸福な持続的社会的の実現に貢献するグローバルな研究者・技術者を育成します。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

ライフサイエンスに関する専門的な知識、実験科学的な理解力、英文の読解や表現に優れた能力

材料創製化学専攻

人材育成の目標

本専攻では、高分子物性工学、無機材料科学、材料物理化学、並びに光工学に関する十分な基礎知識をもち、高分子やセラミックスなどをベースにして高次構造化・機能化のアプローチにより実効性ある革新材料開発を実現する応用能力を身につけた人材を育成します。加えて、材料開発に携わる研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚、豊かな国際性を併せもつ人材を育成します。

本専攻の修了生は、電気製品、化学（プラスチック、有機、無機他）、繊維製品、ゴム製品、ガラス・セラミックス等の企業において研究・開発技術者として活躍すると期待されます。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

高分子材料やセラミック材料の専門領域に対する強い関心、それらの材料を科学する心の知性と実現する意欲

材料制御化学専攻

人材育成の目標

高い機能を持つ材料を扱う研究技術者は、高分子、無機材料などの個々の特性についての知識に止まらず、機能の源となる基礎的な性質について深く理解していることが求められます。本専攻では、それらの知識と理解に基づき、社会に役立つ材料とは何かを考え、将来への見通しを持つ人材、さらに自らの技術力をグローバルに展開する国際性をもつ人材を育成します。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

高分子物質、無機物質などの集合体による、材料のブレークスルーを実現することを志向しつつ、真に豊かな社会の発展を目指すための総合力

物質合成化学専攻

人材育成の目標

本専攻では、有機、無機、高分子化合物、各種ハイブリッドの合成化学、精密分子設計、触媒反応化学、界面材料化学、ならびにヘテロ元素化学に関する十分な基礎知識をもち、精密合成を基盤にボトムアップのアプローチで、医薬品、農薬、発光材料、液晶分子、界面活性物質、繊維改質剤、光反応性触媒など革新的な物質や材料の創成を実現する応用能力を身につけた人材を育成します。加えて、材料開発に携わる研究技術者として、人間的に広く深い素養と自覚、ならびに豊かな国際性を併せもつ人材を育成します。本専攻の修了生は、化学（有機、プラスチック、油脂他）、医薬品、繊維製品分野等の企業において、化学製品や機能材料の創製に軸足を置いた研究・開発技術者として活躍すると期待されます。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

物質の合成に強い興味と関心を持ち、化学に関する幅広い基礎知識を備え、環境との調和、原子・分子レベルでの物質創成を通して有用な新規材料の開発を実現する意欲

機能物質化学専攻

人材育成の目標

本専攻では、生体関連化学、物理・分析化学、分子構造化学、高分子化学及び化学工学に関して十分な基礎知識を持ち、生物の機能や構造を再現・応用することによって、新しい物質や材料を創成するとともに、化学の視点を軸として分子レベルで物質の機能を捉え、構造を探り、その活用を促進できる応用能力を身につけた人材を育成します。加えて、他専攻の講義履修や研究交流を通じながら、広い視野で材料開発に携わる研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚並びに豊かな国際性を併せもつ人材を育成します。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

生命科学と化学の学際領域を担う機能性物質の構造と機能に関する強い興味と関心、研究を遂行する上で不可欠な基礎知識、英語の理解力及び問題解決能力

電子システム工学専攻

人材育成の目標

数学、物理学、電気電子系専門科目の十分な基礎知識を有し、再生可能エネルギー、ナノテクノロジー、新材料、エレクトロニクス、情報通信、画像処理に関する基盤技術を修得するとともに、高度な専門知識に基づいて、物理学、化学、医学との境界領域分野の開拓を先導できる能力、新しい技術を社会実装できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

修学及び研究活動に必要な英語力、基礎学力、希望研究分野に関連した専門基礎知識、研究意欲

情報工学専攻

人材育成の目標

あらゆる産業基盤を支えているICTについての高度な知識と技能を身に付け、情報機器製造業をはじめとする様々な製造業において、またICTを活用したサービス事業を展開する企業において、さらにはICTに関連した様々な企業および教育・研究機関において、リーダーシップを持ちつつ自発的かつ国際的に研究・開発を行い、人間中心型の豊かな情報社会の構築を先導する研究技術者の育成です。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

情報工学、数学に秀でた能力、研究活動に必要な英語能力、豊かな情報社会を実現する強い熱意を持って創造的な研究・開発に意欲的に取り組めること

機械物理学専攻

人材育成の目標

機械物理学専攻は、機械工学の根幹をなす力学分野を中心に、様々な物理現象を理解するための理論的、実験的および数値的解析手法を身に付け、実際の工学的問題に応用する能力を有し、国際的に活躍できる「探究的価値創造力」を持つ機械技術者・研究者を育成することを目的としています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

機械工学の基礎学力、自然やものづくりに対する好奇心と深い洞察力、さらに自ら問題を設定して、その解決に向けて独創的・先端的・挑戦的に取り組めること

機械設計学専攻

人材育成の目標

機械設計学専攻は、機械工学のみならず幅広い先端的テクノロジーに精通し、これらの工学的知識を横断的に駆使することによりイノベーションをデザインする能力を有し、国際的に活躍できる「実践的価値創造力」を持つ機械技術者・研究者を育成することを目的としています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

機械工学の基礎学力、自然やものづくりに対する好奇心と深い洞察力、さらに自ら問題を設定して、その解決に向けて独創的・先端的・挑戦的に取り組めること

デザイン学専攻

人材育成の目標

本専攻では、モノづくりに関わる専門的な社会実装能力を身につけ、異分野の専門家との混合チームの中でデザイナーやエンジニア、またマネージャーとして力を発揮でき、アイデアを実現するためのプレゼンテーション能力と英語でのコミュニケーション能力を身につけ、また、キュレーション分野においては、美術、デザイン、建築などの作品や作者についての基本的な知識を習得し、それを踏まえて作品の分析と文献の解説による理論構築をするとともに、対象の「価値」を「キュレーション」（「企画」「編集」「ディレクション」「展示」「発信」という形式でも示しうる能力を身につけた人材の育成を目指しています。

さらに、連携外国大学（ロンドン芸術大学）とのダブルディグリーコース（DDコース型）では、デザイン分野での国際連携プロジェクトなども行える人材の育成も目指しています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する実技または筆記試験、研究計画や専門知識に関する口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

デザイン、ビジネス、テクノロジー、キュレーションに関する基本的な知識と制作スキル、柔軟で独創的な発想力、さらに深い専門知識と創造的な方法論を研究・実践していく意欲を持つこと。

表現・造形の基本形をマスターしたデザイン系学科、建築系学科の大学の卒業生や、経営系学科、生活科学系学科、エンジニアリング系学科の卒業生、及びそれらと同等の学力を有するモノ・空間・サービス等のデザインやキュレーションに関心のある他学科の卒業生を選抜の対象とする。

※ 修了方法について

本専攻には、修了審査に論文を提出する論文型と、デザインの実制作の成果を提出する特定課題型、また、共同プロジェクトやデザイン課題の成果を提出する連携外国大学（ロンドン芸術大学）とのダブルディグリーコース（DDコース型）の3種類の修了方法があり、出願時にどれかを選択する必要があります。なお、DDコース型は2年後の9月に修了します。4月入学の場合は修了まで2年半在籍することになります。（一般入試秋入学では、修了方法「DDコース型」のみ募集します。）

建築学専攻

人材育成の目標

本専攻では、国際的な競争力を有した都市・建築の計画立案、設計、総合的マネジメントの能力を有し、歴史や環境、地域に根ざした都市・建築の保存・修復・再生に関する構想力と、総合的マネジメント能力を身に付け、さらに、デザインやまちづくりの合意形成や研究内容の社会化を意識した、高い説明能力を有している人材の育成を目指しています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や小論文、実技試験、研究計画や専門知識または持参作品に関する口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

建築学に関する基礎的な学力と建築設計能力、柔軟で独創的な発想力、さらに深い専門知識と創造的な方法論を研究・実践していく意欲を持つこと。

特に京都という地において都市・建築を学ぶことに意識的な人材、歴史と場所性に寄り添う思考態度を持つ人材、地球規模で都市・建築とそのデザインを考える発想力と創造意欲を有する人材を求めます。

京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻

人材育成の目標

本専攻では、英語を共通語としたコミュニケーションを円滑にできる語学能力とグローバルな視点、国際的に通用する建築計画・設計能力と都市・建築の再生・リデザイン能力。そして、これらをもとに総合的かつ論理的に思考する能

力。また、実践・提案につなげていくためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力や様々な文化的背景を持つ都市・建築空間を地域に根ざして読み解く能力を身につけた人材の育成を目指しています。

選抜の方針・ポリシー

専門科目・分野に関する筆記試験や小論文、実技試験、研究計画や専門知識または持参作品に関する口述試験、英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

建築計画・設計と都市・建築の再生・リデザインに関する基礎的能力を有し、国際的な環境におけるコミュニケーションやプレゼンテーションへの意欲・行動力を持ち、様々な文化的背景を持つ都市・建築空間の地域性への理解・関心を有すること。

先端ファイブ科学専攻

人材育成の目標

テキスタイルサイエンス・エンジニアリングを学ぶことにより、人と環境に優しいものづくりができ、かつ未知のものに向かって自らの考えでアプローチができる応用力を身につけた人材を育成します。

選抜の方針・ポリシー

知識の習得意欲ならびに課題解決に対する積極性を求めます。英語による筆記試験、これまで学んできた専門知識に関する口述試験の評価により、能力・適性を判定します。

求める能力と適性

自然科学に関する基礎学力を備え、自身の研究に閉じこもることなく広く知識を得ようとする深い感性と、問題を発見・解決し、それを論理的に説明する能力があり、研究成果が社会に還元できるよう常に自ら思考し実行する情熱と忍耐力

バイオベースマテリアル学専攻

人材育成の目標

バイオベースマテリアル学専攻は、人類が直面する地球環境問題の解決と理想的な未来社会を実現しようとする気概を持ち、高度に分化・専門化した現代の科学技術の基礎を横断的かつ国際的に理解し、その課題解決のために協働できる人材を育成します。その目的達成のためには、植物バイオマスからの原料開拓とそれをを用いた高分子材料の合成、高分子材料の物性や微細構造の解析および成形加工などバイオベースマテリアルに関する研究開発が不可欠であり、これらの分野を理解できる人材を育成します。

選抜の方針・ポリシー

知識の習得とバイオベースマテリアルの研究に意欲的に取り組み、その実現を目指す人を求めます。口述試験及び英語力の評価により、求める能力・適性を判定します。

求める能力と適性

環境問題への関心と解決意欲を備え、科学に対する興味が高く、研究成果の社会に対する貢献心を持っていること。

11 学力検査日時、検査方法及び場所等

(1) 学力検査日時及び科目

① 第Ⅰ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
応用生物学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	専門科目 13:00~14:30(90分)	100	生物学、生化学に関連する問題から選択
		口述 試験	15:00~	100	応用生物学について実施する。
材料創製化学専攻 材料制御化学専攻 物質合成化学専攻 機能物質化学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	専門基礎科目Ⅰ 10:00~11:30(90分)	100	有機化学(高分子化学を含む)
			専門基礎科目Ⅱ 13:00~14:30(90分)	100	物理化学
	専門基礎科目Ⅲ 15:00~16:30(90分)		100	物理学	
	令和5年 8月23日(水)	筆記 試験	専門基礎科目Ⅳ 10:00~11:30(90分)	100	無機化学(分析化学〔各種化学平衡〕を含 む)
			専門基礎科目Ⅴ 13:00~14:30(90分)	100	高分子機能工学(高分子物性を含む)
専門基礎科目Ⅵ 15:00~16:30(90分)			100	生体関連化学	
(注) 専門基礎科目Ⅰ~Ⅵの6科目のうちから3科目を出願時に選択する。					
電子システム工学 専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	50	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	専門科目 10:00~12:00(120分)	150	電磁気学、電気回路、電子回路の3題
		口述 試験	13:30~	100	志望分野に関連する科目の専門的学力等につ いて実施する。
情報工学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	150	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	数学 10:00~12:00(120分)	150	微積分(常微分方程式を含む)、線形代数、確 率統計の3題
		筆記 試験	専門科目 13:30~15:30(120分)	300	プログラミング(C,Java,データ構造とアルゴ リズム)

(次ページへ続く)

第Ⅰ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
機械物理学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	数学 10:00~11:30(90分)	150	線形代数から1題、微積分(微分方程式を含 む)から2題の計3題
		筆記 試験	専門科目 13:00~16:00(180分)	400	材料力学、機械力学、熱力学、流体力学の分 野から各2題(計8題)のうちから4題を選 択
機械設計学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	数学 10:00~11:30(90分)	150	線形代数から1題、微積分(微分方程式を含 む)から2題の計3題
		筆記 試験	専門科目 13:00~16:00(180分)	400	材料力学、機械力学、熱力学、流体力学の分 野から各2題(計8題)のうちから4題を選 択
デザイン学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		実技 または 筆記 試験	専門科目 9:30~12:00(150分)	A:300 B:200	特定課題型とDDコース型は、デザインに関わ る問題(実技を含む)。 論文型は、デザイン、ビジネス、テクノロ ジー、キュレーションに関する記述問題4題 のうちから1題を選択。 試験は、英語で行う場合もあります。
		口述 試験	13:00~	A:200 B:300	研究計画書の内容、関連する専門知識、持参 した資料について実施する。 試験は、英語で行う場合もあります。
		(注) 実技または筆記試験、さらに口述試験の配点については、特定課題型および論文型 は、A配点、DDコース型は、B配点となる。			
建築学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	200	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	専門科目 9:00~10:30(90分)	A:200 B:200 C:300	建築学全般から出題される11題から3題を選 択。
		筆記 試験	小論文 10:45~12:15(90分)	A:100 B:200 C:200	建築学全般から出題される4題から1題を選 択。
		実技 試験	設計 13:30~17:30(240分)	A:300 B:200 C:100	建築設計。解答用のケント紙はA2サイズとす る。
	令和5年 8月23日(水)	口述 試験	13:00~	200	大学院における研究計画及び関連する専門的 知識または持参作品について実施する。
(注) 筆記試験・実技試験の配点については、指導を希望する教員などと事前に相談し、出 願時に希望する配点をA、B、Cの中から選択すること(試験科目により配点A、B、 Cを選択することはできない)。					

(次ページへ続く)

第Ⅰ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	200	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		筆記 試験	専門科目 9:00~10:30(90分)	A:200 B:200 C:300	建築学全般から出題される11題から3題を選 択。
		筆記 試験	小論文 10:45~12:15(90分)	A:100 B:200 C:200	建築学全般から出題される4題から1題を選 択。
		実技 試験	設計 13:30~17:30(240分)	A:300 B:200 C:100	建築設計。解答用のケント紙はA2サイズとす る。
	令和5年 8月23日(水)	口述 試験	11:00~	200	大学院における研究計画及び関連する専門的 知識または持参作品について実施する。
(注) 筆記試験・実技試験の配点については、指導を希望する教員などと事前に相談し、 出願時に希望する配点をA、B、Cの中から選択すること(試験科目により配点A、 B、Cを選択することはできない)。					
先端ファイブロ 科学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しな い)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評 価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力等につ いて実施する。外国人については、日本語によ る試問を含む。
バイオベース マテリアル学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しな い)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力(有機化 学、物理化学、生化学、高分子化学、高分子 物性、物理のうち一つ)の口述試問等を含 む。

② 第Ⅱ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
先端ファイブロ 科学専攻	令和5年 10月14日(土)		外国語 (筆記試験は実施しな い)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力等につ いて実施します。外国人については、日本語に よる試問を含む。
バイオベース マテリアル学専攻	令和5年 10月14日(土)		外国語 (筆記試験は実施しな い)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力(有機 化学、物理化学、生化学、高分子化学、高 分子物性、物理のうち一つ)の口述試問等 を含む。

③ 第Ⅲ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
応用生物学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	13:00～	200	応用生物学について実施する。
材料創製化学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	9:30～	200	研究する分野に関連した科目についての基礎 及び専門的学力について問う。
材料制御化学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	9:30～	200	研究する分野に関連した科目についての基礎 及び専門的学力について問う。
物質合成化学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	9:30～	200	研究する分野に関連した科目についての基礎 及び専門的学力について問う。
機能物質化学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	9:30～	200	研究する分野に関連した科目についての基礎 及び専門的学力について問う。
情報工学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	200	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		筆記 試験	専門科目 9:30～12:00 (150分)	300	プログラミング、ハードウェア、情報通信の 3題
		口述 試験	13:30～	100	志望分野に関連する科目の専門的学力等につ いて実施する。
機械物理学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	13:30～	300	機械工学の基礎事項に関する知識を問う。
機械設計学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評価する。
		口述 試験	13:30～	300	機械工学の基礎事項に関する知識を問う。

(次ページへ続く)

第Ⅲ期

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
デザイン学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		実技 または 筆記 試験	専門科目 9:30~12:00(150分)	A:300 B:200	特定課題型とDDコース型は、デザインに関 わる問題(実技を含む)。 論文型は、デザイン、ビジネス、テクノロ ジー、キュレーションに関わる記述問題4題 のうちから1題を選択。 試験は、英語で行う場合もあります。
		口述 試験	13:00~	A:200 B:300	研究計画書の内容、関連する専門知識、持参 した資料について実施する。 試験は、英語で行う場合もあります。
		(注) 実技または筆記試験、さらに口述試験の配点については、特定課題型および論文型 は、A配点、DDコース型は、B配点となる。			
先端ファイブロ 科学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評 価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力等につ いて実施する。外国人については、日本語によ る試問を含む。研究意欲と表現力も重視して 評価する。
バイオベース マテリアル学専攻	令和5年 12月2日(土)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアによ り、評価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力(有機化 学、物理化学、生化学、高分子化学、高分子 物性、物理のうち一つ)の口述試問等を含 む。

④ 秋入学

専攻	学力検査日	区分	学力検査科目・時間	配点	内 容
デザイン学専攻 (DDコース型)	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評 価する。
		実技 または 筆記 試験	専門科目 9:30~12:00(150分)	200	デザインに関わる問題(実技を含む)。 試験は、英語で行う場合もあります。
		口述 試験	13:00~	300	研究計画書の内容、関連する専門知識、持参 した資料について実施する。 試験は、英語で行う場合もあります。
		(注) 本試験は、DDコース型のみを対象としたものです。			
先端ファイブロ 科学専攻	令和5年 8月22日(火)		外国語 (筆記試験は実施しない)	100	筆記試験に代えて、出願時に提出された TOEIC個人用公式認定証のスコアにより、評 価する。
		口述 試験	13:00~	200	志望分野及び関連分野の専門的学力等につ いて実施します。外国人については、日本語に よる試問を含む。

(2) 試験場 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス（京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地）

試験室等は、次の日までに本学のホームページ（https://ac.web.kit.ac.jp/02/gs_news.php）及び入試課前掲示板に掲示します。

第Ⅰ期・秋入学：令和5年8月21日（月）

第Ⅱ期：令和5年10月13日（金）

第Ⅲ期：令和5年12月1日（金）

(3) 受験についての注意

共通の注意事項

1) 持参物

試験には、次の物を持参してください。

- ① インターネット出願システムより印刷した受験票
- ② 筆記用具（HB程度の黒鉛筆またはシャープペンシル、プラスチック消しゴム）
- ③ 時計（携帯電話や計時以外の機能が付いた機器を、時計として使用することはできません。）

※デザイン学専攻、建築学専攻および京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻については、専攻ごとの注意事項で指定されたものを準備しておいてください。

2) 受験上の留意事項

- ① 受験生は、試験の当日、インターネット出願システムより印刷した受験票を持参し、試験監督者等の指示に従って提示してください。持参していない場合は、受験できないことがあります。万一、紛失した場合または忘れた場合は、入試課へ申し出てください。
- ② 試験当日は試験開始20分前までに試験場に到着し、各科目の試験開始15分前までに所定の試験室または口述試験控室に入り、自分の受験番号の席に着いてください。
- ③ 試験開始後、20分以上遅刻して試験室に到着した場合は、受験することができません。
- ④ 指定の科目等を1科目でも受験しなかった場合は、全試験を放棄したものとみなされ、以後は受験することができません。
- ⑤ 試験中、不正行為をした場合及び不正行為とみなされる行動があった場合、または監督者の指示に従わない場合は、直ちに受験の停止を命じます。
- ⑥ 身体の都合等により定められた試験室において受験することが困難と思われる場合は、事前に入試課に申し出てください。
- ⑦ 試験時間中に気分が悪くなるなど、受験することが困難と思われる場合は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。この場合、医務室で一時休養の後、試験室に復帰することは可能ですが、試験時間の延長は認めません。また、試験室への復帰が、次の試験時間の遅刻限度20分を経過した場合は、当該学力検査科目の受験も認めません。
- ⑧ 試験中、携帯電話・その他の電子機器・腕時計のアラーム音などが発生しても、試験の再実施や時間の延長などの対応はいたしません。

3) 禁止事項

- ① 試験中は、受験票並びに試験監督者の指示するもの以外は机の上に置いてはいけません。
- ② 計時以外の機能が付いた時計及び計算機能等がついた文房具の持込を禁止します。
- ③ 携帯電話や音の出る機器は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってカバン等の中にしまっておいてください。携帯電話を時計として使用できません。また、時計もアラームの設定を解除し、鳴らない状態にしておいてください。
- ④ 文字や数式等がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合は、裏返して着ていただくことがあります。座布団と膝掛けは、文字や数式等がプリントされていないものに限り使用を認めます。
- ⑤ 試験室内では入室から退室まで（休憩時間を除く）、飲食（ガム・あめなどを含む）は禁止です。

- ⑥ 試験開始以降、試験室を退室するまで（休憩時間を除く）、試験当日に各専攻から貸与される物品がある場合を除いて、携帯電話やその他の電子機器（オーディオプレーヤー・パソコン・ゲーム機・電子辞書・電子手帳など）は使用できません。
- ⑦ 各建物のエレベーターの使用を禁止します。

4) その他

- ① 試験当日に、交通機関の遅延等により試験開始時刻の変更等がある場合は、本学ホームページでお知らせします。
<https://www.kit.ac.jp/>
- ② その他、受験について不明な点があれば、入試課にお問い合わせください。

各入学試験における専攻ごとの注意事項

第Ⅰ期

■材料創製化学専攻／材料制御化学専攻／物質合成化学専攻／機能物質化学専攻

受験生には、一部の専門基礎科目の試験において、プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）を貸与します。

■デザイン学専攻

口述試験の際、A3用紙の大きさを3枚までにまとめた作品集・資料等を持参してください。

なお、受験者には試験（実技など）に使用する特別な用具は貸与します。

■建築学専攻

下記のものを持参してください。

ア. 専門科目：プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。

イ. 小論文：プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。

ウ. 設計：製図用具、プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。ただし、製図板とT定規は貸与します。

また、メモ類の持ち込みは一切認めません。

エ. 口述試験：研究計画を説明する場合は、必要と思われる資料、または建築設計作品のうち代表的な2点以上の説明できる図面、写真等を持参してください。

ただし、建築模型の持ち込みは認めません。

■京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻

下記のものを持参してください。

ア. 専門科目：プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。

イ. 小論文：プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。

ウ. 設計：製図用具、プログラム機能のついていない関数型計算機（電池式）。ただし、製図板とT定規は貸与します。

また、メモ類の持ち込みは一切認めません。

エ. 口述試験：研究計画を説明する場合は、必要と思われる資料、または建築設計作品のうち代表的な2点以上の説明できる図面、写真等を持参してください。

ただし、建築模型の持ち込みは認めません。

第Ⅲ期

■デザイン学専攻

口述試験の際、A3用紙の大きさを3枚までにまとめた作品集・資料等を持参してください。

なお、受験者には試験（実技など）に使用する特別な用具は貸与します。

秋入学

■デザイン学専攻

デザイン学専攻の秋入学入試は、DDコース型のみを対象としたものです。

口述試験の際、A3用紙の大きさを3枚までにまとめた作品集・資料等を持参してください。

なお、受験者には試験（実技など）に使用する特別な用具は貸与します。

12 合格発表

次の日時に合格者の受験番号を本学のホームページ (https://ac.web.kit.ac.jp/02/gs_news.php) に発表します。

なお、合格者には、入学願書に記載された受信場所宛に合格通知書を郵便により送付します。

第Ⅰ期・秋入学：令和5年9月6日（水）17時（予定）

第Ⅱ期：令和5年10月18日（水）17時（予定）

第Ⅲ期：令和5年12月13日（水）17時（予定）

13 入学手続

合格者は、次の日時に入学手続を行ってください。なお、入学手続書類は、合格通知書に同封します。

第Ⅰ期・第Ⅱ期

入学手続期間 令和5年11月16日（木）から令和5年11月22日（水）（17時必着）まで

第Ⅲ期

入学手続期間 令和6年~~2月8日(木)~~2月10日(土)から令和6年~~2月14日(水)~~2月19日(月)（17時必着）まで

秋入学

入学手続期間 令和5年9月8日（金）から令和5年9月14日（木）（17時必着）まで

14 欠員補充

デザイン学専攻、建築学専攻、京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻においては、11月22日の入学手続時の入学手続者が一般入試第Ⅰ期の募集人員に満たない場合、11月27日から12月1日まで一般入試第Ⅰ期の合格者を追加することがあります。

追加合格者には、電話等で入学願書に記載された受信場所に連絡しますので、この期間は直接本人と連絡できるようにしておいてください。追加合格状況については、本学ホームページ

(https://ac.web.kit.ac.jp/02/gs_news.php) で確認してください。

なお、入学手続後に入学辞退者がいた場合においても、一般入試第Ⅰ期の合格者を追加することがあります。

15 入学に要する経費

- (1) 入学料 282,000円
- (2) 授業料 267,900円（半期）535,800円（年額）
- (3) 学生教育研究災害傷害保険及び付帯賠償責任保険料
2年間の保険料 2,430円（予定）

- ① 入学料及び授業料の額については、改定される場合があります。
- ② 入学料の納入は、入学手続時に行います。入学時に入学料及び授業料が改定された場合は、改定後の入学料及び授業料の額が適用されます。なお、在学中に授業料が改定された場合は、改定時から新授業料の額が適用されます。
- ③ 授業料の納入は、年間の授業料について、前期及び後期の二期に区分して行います。納入月は前期は4月、後期は10月で、それぞれの期において納入する額は、年額の二分の一に相当する額です。
- ④ その他、必要に応じて納入する諸経費があります。
- ⑤ 納入方法等の詳細については、合格通知に同封します。
- ⑥ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ⑦ 入学手続時に入学に要する経費を納入した後で、令和6年3月29日(金)17時（秋入学の場合は令和5年9月22日(金)17時）までに入学を辞退した場合は、申し出により入学料以外を返還します。返還の方法については学務課学務企画係に連絡してください。

16 入学科・授業料の免除等制度

入学科・授業料の納入が経済的理由により困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、願い出により選考のうえ、入学科・授業料の全額または一部を免除もしくは入学科・授業料の徴収が猶予される制度があります。

令和6年度前期分（秋入学は令和5年度後期分）の授業料免除の申請方法は、外国人留学生（在留資格が「留学」の人、及び本学入学時までに「留学」の在留資格を取得する人）とそれ以外の人とで次のとおり異なります。詳細は、学生支援・社会連携課経済支援係へ問い合わせてください。

■令和6年度前期分（秋入学は令和5年度後期分）の授業料免除の申請方法

- (1) 外国人留学生（在留資格が「留学」の人、または本学に入学するまでに「留学」の資格を取得する人）のうち、下記のいずれかに該当する人

I. 私費外国人留学生

- II. 出願時には国費外国人留学生であるが、本学入学時に私費外国人留学生となる可能性がある人（国費外国人留学生の奨学金支給期間延長の申請をしている人、またはその申請をする予定のある人も含まれます）

出願書類と一緒に申請を受け付けます。なお、授業料免除の申請が入試の合否判定に関係することは一切ありません。

① 申請期間

入試の出願期間に、「② 申請書類」を入試出願書類と一緒に提出してください。出願期間後の申請は受け付けません。出願期間の詳細は、3ページの『4 出願期間』を参照してください。

② 申請書類

- ・授業料免除申請書類一式（本学所定様式）

本学ホームページ (https://www.kit.ac.jp/en/prospective_student/life_fee/) よりダウンロードしてください。

③ 選考結果の通知

入学試験の合格通知書と併せて、免除選考結果通知書を送付します。

- (2) 上記(1)以外の人

入学手続後に申請を受け付けます（申請受付日は令和6年3月（秋入学は令和5年9月）の予定）。

申請方法は、合格通知書に同封する入学手続書類で確認してください。

17 奨学金制度

- (1) 日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で経済的理由のため修学が困難と認められる場合は、願い出により選考のうえ、独立行政法人日本学生支援機構より奨学金の貸与を受けることができます（外国人留学生を除く）。奨学金の種類には、第一種（無利子）と第二種（有利子）があります。

<返還免除制度>

日本学生支援機構第一種奨学金の貸与を受けた者であって、貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した人を対象に、その奨学金の全額または一部の返還が免除される制度があります。また、博士前期課程（修士課程）の入学前に返還免除が内定（決定は貸与終了時）する制度があります。（秋入学者は除く）

- (2) 地方公共団体及び民間育英団体の奨学金

地方公共団体及び民間育英団体による奨学金制度があります。願い出により選考のうえ、奨学金の貸与または給付を受けることができます。

18 安全保障輸出管理

本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人京都工芸繊維大学安全保障輸出管理規則」を定め、技術の提供や研究者・学生の受け入れに際し、厳格な審査を実施しています。

規制事項に該当するおそれのある場合は、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育研究活動ができない場合があります。また、本学からの許可申請について、経済産業省が不許可とした場合は、希望する教育研究内容の変更を求められる場合や、結果的に本学での教育研究活動ができない場合があります。

【参考】経済産業省 URL：<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/>

本件に関する本学問い合わせ先 研究推進・産学連携課 ken-apply@jim.kit.ac.jp

よくあるご質問

Q1：現在在籍している大学（学部）を令和6年3月卒業見込みです。令和6年4月入学の博士前期課程（修士課程）の入学試験の出願に当たって、2ページに記載の出願資格認定審査を申請する必要がありますか。

A：ご質問の条件であれば、1ページに記載の出願資格のうち、「(1)大学を卒業した人及び令和6年3月（秋入学の場合は令和5年9月）までに卒業見込みの人」に該当することから、出願資格認定審査の申請は不要です。

Q2：一般入試（第I期）で情報工学専攻への出願を考えていますが、出願時に志望理由書や、研究計画書の提出は必要ですか。

A：不要です。3～4ページに記載の出願書類のうち、志望理由書、研究計画書の項目に明記されている専攻・区分に出願する場合のみ、それぞれ提出が必要です。
なお、社会人特別入試、外国人留学生特別入試に出願する場合は、全専攻で研究計画書の提出が必要です。

Q3：希望指導教員と連絡を取りたいのですが、連絡先をどこで調べられますか。

A：大学院入試最新情報（https://ac.web.kit.ac.jp/02/gs_news.php）ページ右上の「教員一覧（研究内容等）」に、博士前期課程（修士課程）、博士後期課程で指導を行う各教員の研究テーマと連絡先メールアドレスへのリンクを掲載しています。

問い合わせ先

大学院入試全般について

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 京都工芸繊維大学
入試課大学院入試係
TEL：075-724-7162 e-mail：innyushi@kit.ac.jp

◆ 入試課へお問い合わせの際には、受験希望の入試について下記の情報をできるだけ詳細にお知らせください。
また、出願後のお問い合わせについては、必ず受験票に記載されている「受験番号」をお知らせ願います。

- 修士課程、博士課程
- 「入試種別」（推薦、自己推薦、一般、社会人、外国人留学生）
- 「入試区分」（4月入学（第I期、第II期、第III期）、秋入学）
- 「志望専攻」

入学手続について

学務課学務企画係
TEL：075-724-7133 e-mail：gakumu@jim.kit.ac.jp

入学科・授業料の免除制度及び奨学金制度について

学生支援・社会連携課経済支援係
TEL：075-724-7143 e-mail：shogaku@jim.kit.ac.jp

安全保障輸出管理について

研究推進・産学連携課
e-mail：ken-apply@jim.kit.ac.jp